資料６－５

登録引率者の研修カリキュラム改善について

1. 背景と課題

登録引率者向けの研修は、毎年、知床五湖登録引率者審査部会が主催し、参加必須のシーズン前・中・後研修と任意参加のスキルアップ研修が行われている(各研修に関する詳細は【参考】を参照のこと)。

当該研修については、これまで、「ヒグマに遭遇しないようにする事」を対策の中心として構成されてきたが、昨今のヒグマとの遭遇増加や羅臼岳での人身事故を踏まえて、今後は「ヒグマとの遭遇や事故時に適切に対応する事」にもより重きを置いた構成へと改善していく必要がある。また「遭遇事例のケーススタディ(シーズン中研修)が、実効性のある内容になっていない」、「シーズン前研修及びスキルアップ研修等が、ヒグマとの遭遇・事故の際の実践的な内容になっていない」といった指摘が昨年度及び今年度の登録引率者審査部会ではなされている所である。

2. 研修カリキュラムの改善案（短期）

- **シーズン前研修**
  - 小ループツアー増枠に伴う無線交信のシミュレーションの改修
  - 羅臼岳事故をふまえたヒグマの人馴れの低減等の再発防止策の確認
- **シーズン中研修**
  - ケーススタディでの共通認識の醸成（議論の発散に加えて集約にも重点）
  - 議論の結果や過程が蓄積される仕組みの導入
  - ケーススタディとして、遭遇事例だけでなく、事故発生から終息までの一連の流れを事例として扱う（シーズン後研修での実施も検討）
- **スキルアップ研修**
  - ヒグマ活動期ハンドブックの「緊急事態宣言」を想定したシミュレーションの再開（地上遊歩道での搬送・無線訓練含む）
  - 任意参加から 3 年に 1 回は参加必須等への仕様変更
  - 講師の招聘を通じた、外部知識を取り入れる場としての改修

3. 研修カリキュラムの中長期的な改善に向けて

制度開始から時間が経ち、安全管理にかかる基礎的な考え方の変化、個人ガイド・地域外からのガイドの増加や、ヒグマの遭遇事例の増加や人馴れ対策の導入といった様々な変化に対応した研修へと再編することが必要である。また、登録引率者研修の内外での位置づけや、持続可能な実施体制について、検討することが求められる。

カリキュラムを適切に定めるためには、引率者に求める能力・知識、延いては五湖の利用のあり方や安全管理がどうあるべきか等の根本的な議論も不可欠である。

【参考】

2026 年度 登録引率者の研修カリキュラム

シーズン前研修 ○２回に分け実施し、うち１回の参加必須	
座学・実習 （3 時間）	①受付（引率要件の確認） ・クマスプレーの有効期限、賠償責任保険の加入状況、救命救急講習の受講状況（普通救命救急講習又はそれに準ずる講習を受講していること（期限内に限る）） ②基本ルール・変更点の確認 ③ヒグマの現状、情報共有方法の説明 ④知床五湖 FH での手続、予約システムの利用方法等の確認 ⑤ヒグマ遭遇時シミュレーション（無線機連絡方法の確認） ⑥搬送訓練（用具の使用方法の確認）

シーズン中研修（ヒグマ遭遇ケーススタディミーティング） ○２回に分け実施し、うち１回の参加必須	
座学 （各 2 時間）	①遭遇事例のケーススタディ（既存引率者からのヒグマ遭遇経験共有） ※前年度事例を含む ※事前にメーリングリスト等を用いて情報の提供・共有を行うことで、スムーズかつ効果的な議論を目指す。 ※状況に応じてリモート又はレポート提出等の代替研修とする。

シーズン後研修 ○２回に分け実施し、うち１回の参加必須	
座学 （各 2 時間）	①ヒグマ活動期後の情報共有（遭遇事例含む）・意見交換 ②基本ルール・運用に対する意見交換 ※事前にメーリングリスト等を用いて情報の提供・共有を行うことで、スムーズかつ効果的な議論を目指す。 ※状況に応じてリモート又はレポート提出等の代替研修とする。
試験説明会（シーズン後研修と同日開催）	
（0.5 時間）	・受験資格の確認 ・登録試験実施概要、スケジュールの共有 ・制度やルールの講義（試験問題解説等）

スキルアップ研修（任意）	
座学・実地 （1 日）	コース外踏査、緊急対応訓練、ヒグマ対処訓練、知床五湖モニタリング調査共有、学術研究調査結果共有、ガイド技術講座などから予定。 ※シーズンのトピックや研修結果を踏まえて決定する。 ※概要は事前にメーリングリスト等を用いて案内する。